

私の夢(20代女性)

動画リンク: <https://youtu.be/03sE9II90D4>

■自己紹介

私は藤田しおりといいます。25歳です。出身は長野県です。長野は山や川が多く、自然がとてもきれいです。子どものころは家族とよく山に行きました。そのときの思い出は、今でも大切にしています。

今は東京で保育士をしています。保育士とは、小さな子どもをあずかり、遊んだり学びを手伝ったりする仕事です。朝、子どもたちを迎えて、一緒に歌を歌ったり、おもちゃで遊んだりします。ときにはけんかを止めたり、泣いている子をなぐさめたりもします。とても大変ですが、子どもの成長を近くで見られるのは幸せなことです。

一日は、朝8時に保育園に行くところから始まります。午前は外で遊ぶ時間が多く、午後は絵本を読んだり、昼寝の時間を見守ったりします。夕方になると、子どもを迎えに来た保護者にその日の様子を伝えます。夜は自分の時間を使って、本を書く練習をしています。

私は、いつか子ども向けの絵本を作ることを夢にしています。そのために、短いお話を考えたり、子どもたちが楽しめる言葉をノートに書いたりしています。

保育士の仕事は体力も使いますし、責任も大きいです。でも、子どもの笑顔を見ると疲れが消えていきます。毎日の中で感じたことを本に活かせると思うと、忙しい日々も夢につながっていると感じます。

■子どものころに思い描いた夢

私は子どものころ、たくさんの夢を持っていました。小学生のときは、毎日のように友だちと将来の話をしました。そのときは歌手になりたいと思ったこともあったし、花屋で働きたいと考えたこともありました。花の香りや色が好きで、お店に行くだけで楽しい気持ちになれたからです。

でも、一番強く心に残っているのは「絵本を作りたい」という夢です。小さいころ、母がよく絵本を読んでくれました。夜寝る前に読む時間は、私にとって一日の中で特別な時間でした。絵本の中には、動物や魔法の世界が広がっていて、私はすぐにその世界に入りこみました。ページをめくるたびに新しい発見があり、胸が高鳴りました。

また、小学校の図書室は私のお気に入りの場所でした。本棚にはいろいろな絵本が並んでいて、毎週のように借りていました。友だちと同じ本を読んで、感想を言い合うのも楽しかったです。そのころから「自分もこんな本を書けたらいいな」と思うようになりました。

中学生になると勉強や部活動が忙しくなり、夢のことを話す機会は少なくなりました。それでも、心のどこかには「いつか子どもたちに読んでもらえる本を作りたい」という気持ちが残っていました。私にとって絵本は、子どもだけでなく大人も楽しめる大切なものです。子どものころに持ったこの夢は、今の私の人生につながっています。

■学生時代に広がった価値観

私は大学生のとき、多くの新しい体験をしました。それは私の考え方を大きく変えました。長野で育ったころは自然の中で過ごすことが多かったのですが、東京の大学での生活はまったく別の世界のように感じました。人が多く、文化や考え方もさまざまでした。最初は少し戸惑いでしたが、しだいにその違いを楽しめるようになりました。大学では教育について学びました。子どもがどのように成長するのか、遊びや学びがどんな意味を持つのかを知りました。本で学ぶことも多かったですが、実際に子どもと関わる実習の時間は特に印象的でした。子どもが笑ったり、うまくできなくて泣いたりする姿を見て、「本当に一人ひとりが違うんだ」と実感しました。また、大学には外国から来た学生も多くいました。彼らと話すと、日本では当たり前だと思っていたことが、他の国ではそうではないと気づきました。たとえば、お弁当や学校行事の話をする、驚かれることがありました。その経験を通して「文化の違いを知ること」は自分を知ることでもある」と思うようになりました。こうした体験は、私の夢にも影響を与えました。私は将来、子ども向けの絵本を作りたいと考えています。大学時代に学んだ教育の知識や、外国の友人と話した経験は、きっとその本にいかせると思っています。子どもが楽しめるだけでなく、文化の違いを感じられるようなお話を作りたいと考えるようになりました。

■夢を追いかける中で感じた現実

大学を卒業したあと、私は保育士になりました。最初から絵本作家を目指すことも考えましたが、子どもの成長や生活を直接知る経験が大切だと思い、まず保育士として働く道を選びました。子どもと過ごす中で、どんなお話やことばに笑ったり、夢中になったりするのかを学べると考えたからです。子どもと毎日接していると、絵本の大切さをあらためて感じます。子どもたちはお気に入りの絵本を何度も読みたがります。言葉のリズムや色のある絵を見て笑う姿を見ると、「自分の経験は、きっと絵本作りに活かせる」と思うようになりました。しかし、夢をかなえる道は簡単ではありませんでした。保育士の仕事は朝から夕方まで続きます。外遊びや食事の手伝い、昼寝の見守りなど、体力も集中力も必要です。家に帰ると疲れてしまい、本を書く時間を作るのが難しいと感じました。経済的な不安もありました。絵本だけで生活できるわけではないので、安定した収入のために保育士の仕事を続けています。夢と現実のバランスを考えることは、今も大きな課題です。また、自分の力に自信を持てないときもありました。書いた話を読み返して「これで子どもが楽しめるだろうか」と悩むこともあります。そういうときは一歩ふみ出すのがこわくなります。それでも私はあきらめませんでした。少しずつイラストを描き、短い話を作ってSNSに投稿しました。すると、友人や知らない人から「おもしろい」「かわいい」と反応がありました。その言葉は、私にとって大きな励みになりました。お夢を持ちながら現実の中で働くのは大変ですが、保育士の経験や小さな挑戦の積み重ねが、絵本作りにつながっていると感じています。

■挫折と学びの体験

私はこれまでに、夢を追いかける中で何度も挫折を経験しました。最初の大きな挫折は、大学を出て保育士として働き始めてすぐのころでした。仕事に慣れるだけで精一杯で、絵本作りのための時間を全く取ることができませんでした。「このままでは夢をかなえるのは無理かもしれない」と思い、気持ちが沈んでしまったことがあります。

その後、少しずつ時間を作ろうと努力しましたが、最初にしたお話はうまくまとまりませんでした。自分ではいいと思っていても、読み返すと登場人物の気持ちが伝わらず、何度も書き直しました。そのときは「私には才能がないのではないか」と考えてしまい、とても苦しくなりました。

さらに、SNSに投稿したイラストが思ったほど反応をもらえなかったこともありました。人に見てもらうことがこわくなり、一時期は投稿をやめてしまいました。しかし、友人が「絵を楽しむにしているよ」と声をかけてくれて、少しずつまた描く気持ちを取り戻しました。

こうした失敗や悩みから学んだのは、「完璧を求めすぎないこと」です。最初からうまくできなくても、少しずつ練習を重ねれば必ず進歩があります。また、周りの人の応援や子どもたちの笑顔が、私にとって大きな支えになると気づきました。

挫折はつらい経験でしたが、その中で「なぜ私は絵本を作りたいのか」を改めて考えるきっかけになりました。それは、子どもたちに楽しい時間を届けたいからです。挫折があったからこそ、この思いをより強く持つことができました。

■小さな一歩を重ねる工夫

私は夢に向かうとき、一度に大きなことをしようとすると続きませんでした。そこで、小さな一歩を重ねることを大切にしました。

まず、毎日少しずつ書く時間を決めました。最初は一日五分でもいいと考え、寝る前にノートを開いて短い物語や絵を描きました。五分が十分になり、やがて三十分と、自然に時間をのばすことができました。「今日はこれだけでいい」と思うと、無理なく続けられることに気づきました。

次に、子どもたちとの生活を観察することを意識しました。保育園での遊びや会話には、お話のヒントがたくさんあります。子どもが突然言った言葉や、笑った瞬間をメモしておくと、物語の材料になります。これは保育士として働いているからこそできる工夫だと思います。

また、SNSを活用しました。短いお話やイラストを投稿すると、少しずつ反応が増えていきました。「かわいい」「おもしろい」といった感想は、自信を持つきっかけになりました。ときには厳しい意見もありましたが、それを参考にして描き直すと、新しい発見がありました。

さらに、本を読む習慣も大切にしました。子どもたちのころに読んだ絵本をもう一度読み返すと、当時は気づかなかった工夫が見えてきます。他の作家の作品から学ぶことで、自分の表現の幅が広がりました。

小さな努力は目立たないかもしれませんが、積み重ねれば確かな力になります。私はこの積み重ねによって、自分の夢が少しずつ形になっていくのを感じています。

■今の私が描いている夢

私は今、子ども向けの絵本を作ることを大きな夢にしています。子どもがページをめくりながら笑ったり、驚いたりするような本を作りたいです。物語の中で、子どもたちが自分を主人公のように感じられるようなお話にしたいと考えています。

そのために、私は「楽しいだけでなく、心に残るお話」を目指しています。たとえば、友だちと助け合うことや、失敗してもあきらめないことなど、子どもが生活の中で感じるテーマを物語に取り入れたいです。子どもが読んだあとに「やってみよう」と思えるような力を持つ絵本を作るのが目標です。

また、絵本には絵の力も欠かせません。私は今、イラストを描いてSNSに投稿しています。多くの人に見てもらうことで、自分の絵を客観的に見ることができ、改良点もわかります。ときどき海外の人からコメントをもらうこともあり、そのたびに「言葉や国が違っても絵本は伝わる」と感じます。

将来は、自分の絵本を出版して、保育園や図書館に置いてもらいたいです。子どもが自由に手に取り、好きなときに読める本になれば、とても幸せです。そして、絵本を通して子どもだけでなく大人にも「やさしい気持ち」や「夢を持つことの大切さ」を伝えたいと考えています。

私はこの夢をかなえるために、これからも少しずつ努力を重ねていきます。時間はかかっても、あきらめずに続ければ、きっと夢は現実になると信じています。

■夢を持ち続ける意味と希望

私はこれまでの経験を通して、夢を持ち続けることには大きな意味があると感じています。夢があると、毎日の生活に目標が生まれます。たとえ小さな一歩でも、前に進んでいると実感できます。その気持ちが、忙しい日々を支えてくれます。

保育士として働いていると、子どもたちの成長を間近で見ることができます。昨日できなかったことが今日できるようになる瞬間は、私にとって大きな励みです。その姿は「私も少しずつ成長していこう」と思わせてくれます。夢を持ち続ける力は、子どもからも学んでいるのだと気づきました。

夢を追いかける中では、悩みや不安もあります。時間が足りないと感じたり、自分の力に疑いを持ったりすることもあります。しかし、その気持ちをのりこえた先には、新しい発見や出会いがあります。私の場合は、絵本を作りたいという夢を持ち続けたことで、文章を書く習慣やイラストを描く習慣が生まれました。これは夢がなければ始められなかったことです。

そして、夢は自分だけのものではないと感じるようになりました。私が描く絵本は、子どもや大人に読んでもらうことで初めて意味を持ちます。夢を持ち続けることは、自分だけでなく、誰かの笑顔や希望にもつながると信じています。

私はこれからも絵本作りの夢を追いつけます。その道のりは長いかもしれませんが、夢を持っていることで毎日が明るくなります。夢は未来を照らしてくれる灯のような存在だと、私は思っています。



Japanese-listening-SUSHI

